

20230705 学校協議会 @ランチルーム 19:00~

参加者 吉本様 濱口様 穂積様 濱谷様 前馬様 校長 教頭

【会長ご挨拶(吉本様)】

今年度から会長を務める

他県育ち。私自身は周囲の方の手助けをいただき育ってきた。(結婚して住むようになった)大阪には、そのような文化はないかと思ってきたが、大阪にもあった。子どもたちは地域で育てていかなければと思っている。

【自己紹介】

【学校経営の進捗状況】

学校教育目標は「あたたかい心とことばのあふれる学校」

これまでと変わらないが大切にしたい。

○人権意識の向上

相手のことを考える

私が子どものときにもよく言われた。今は自分、自分になっている児童が多いように感じる。

児童の適切ではない言葉使いなど、教職員が意識をして見逃さないようにしていくことが大切。

平和学習について

8月6日の夏休み平和登校日について、今年は8月6日が日曜日になり、8月4日に行くと、出席率が下がることが予想されることから、1学期中にしっかりと平和学習に取り組むこととした。しかし、8月6日など大切にしなければならない日は多くある。その日について、しっかりと意識するために絵日記などの宿題の中で、平和について考えるテレビや資料などを見て、自分で、または家族と一緒に平和について考えたことを書く内容を取り入れた。

ICT 機器について

ICT 機器を使っのトラブルが多くある。SNS のやり取りの中で、よくない言葉を連続して書く児童がいた。このような課題にも正対していかななくてはならない。

ありがとうの木

生活指導担当が行っている取組み。あたたかい心を育てる。

人権研究会への参加

教職員の資質向上をめざす。

○言語活動、読書活動の向上

言語活動を中心に据えた単元学習

児童にもだいたい定着してきた。

言語活動を通してつきたい力を意識し、見通しを持って取り組む学習。

その学習の一つに、「委員会活動で取り組みたいこと」を、校長へプレゼンするという内容があった。国語では、より伝わりやすいように、文章の構成などを考え、それを特別活動として、委員会活動の充実につなげた。ただ学習するだけでなく教科横断的にも自分たちの学びにつなげている。今日、児童のプレゼンテーションを1

6組聞いた。6年生は1年生から取り組んでいるので、スムーズに取り組むことができている。

読書活動の推進

読むことに抵抗を持っている児童が多くいる。本の楽しさをイメージできない児童も多くいる。図書委員会のプレゼンテーションでは、おすすめの本を教室に持ち込みたいとあった。学校の取組みと、児童の思いをうまくリンクさせていきたい。

読書ボランティアの読み聞かせも活用している

隙間時間にiPadを利用することが増えてきているが、読書をさせていきたい。

○支援教育の充実

適切な学びの場

昨年度通知がきたが、それ以前からそれぞれの子に応じた適切な学びの場を検討してきた。卒業後の力を見据えた学習を進めている。

MIM

ことばの力の土台をつけ支援が必要な児童に早い段階からアプローチすることを目的とした教材。以前から取り組んできたが、継続している。

コグトレオンライン

認知機能の強化。以前から紙面で取り組んできたが、昨年度からiPadで導入した。AIによって個別最適化された教材に取り組むことができ、非常に有効と考えている。

チームで歩む学校

○定例ミーティングの実施

校長として教職員の悩みをしっかりとキャッチできるようにしている。

○丁寧な初期対応と組織対応

児童のことや保護者対応など悩むことがあったときには、隣の教員に相談する、校長に相談するなど、みんなで支えあう体制を整えていく。

保護者・地域とともに子どもを育てる学校

○学校間連携

四中校区内で連携していく。校区全体として指導に差がなくなっていくように連携。

研究授業の相互参観。コロナ前はよく行っていた。今年度しっかりと取り組んでいこうと確認した。6月30日には四中の教員にも多く参加してもらった。

○地域人材・地域の活用

小学校に通っていない家庭でも、ご協力を頂けることはないかと考えている。

公民館の展示スペースを活用しての連携。7月の終わりには、平和の作品を展示する。

ダイキン工業さまでのホテル観賞会。多数の参加があった。保護者の引率協力も得られた。また、毎年工場見学でもお世話になっている。昨年度からは、校外学習の際のバスの乗降場所の提供を受けている。児童からは、ダイキン祭りのポスター作製に取り組むなど、双方向の連携をしている。

【学校行事等の報告】

コロナの制限が緩和されているいろいろなことができるようになってきた。

・体育館での集会

初めて全校で集合することを体験した児童が多くいた。高学年が手本を示して、低学年を引っ張っていた。異学年交流の良い姿。

・水泳学習も学年ごとでできるようになった。

・運動会について、時間短縮はしつつ、子どもたちが楽しみにしているので、競技の内容も検討

・校内音楽会も実施することができた。

・公開研修会に100名近くの他校の教員の参加があった。多目的室のエアコンが利かないくらいたくさんの参加があった。

【協議・意見交流】

○課題

・言葉使いがきつい。攻撃性が高いが、言われると弱い。保護者も同じ傾向がある。その点を粘り強くしっかりと指導することができるよう、教員にも指導している。

・教職員の異動がある。これまでは課題のある学校に対する教員の配置がされてきた。少しずつ変わってきた。教職員同士が助けあったり、技術を教え合ったりすることを進めている。経験のある教員と新任の教員は同じレベルではない。しかし差を埋めることが大切。

・落ち着いてきていることから、教職員のアンテナが低くなってきていないか、しっかりと振り返るよう指導している。これまでに築いてきたことを継承していきたい。

・摂津市学力定着度調査において、目標値を達成できるようになってきた。しかしながら平均点は全国値を超えていない。上位層を伸ばすことと、下位層への手立てが足りていなかったことがあげられるのではないか。今年度はその点に力を入れ、全国平均を上回ることをねらいたい。

・基礎基本の学力の定着。家庭学習に取り組むことのできない児童がまだまだ多い。仕掛けをして、主体的に学ぶ児童を育てていきたい。

○成果

成果については、資料をご覧ください。

【質疑応答】

委員

コロナが5類に移行した中で、行事を行うにあたって保護者を含めどのような印象か。

校長

怖いという声はあまり感じない。しかし、音楽会でマスクを外していない児童が多くいた。今は熱中症の心配もあるので、外すことも指導しているが、いまさら外せないという声が聞かれる。

委員

感染以外の心配をされているのですね。

委員

チームと言っているが、チームについてしっかりと考える必要があるのでは。同じ人ばかりではチームではない。いろいろな人がいて、それぞれの個性を発揮することがチームではないか。ややもすると、一人一人の仕事量を薄めることに行きがち。どのように個性を発揮するかが大事。授業力の違いがあるのは当然。マニュアルをこなすだけになってしまう。新任には新任の良さがある。つついできていないでいていないに目を向けると、心の無い授業になりがち。教職員の個性・経歴を尊重しつつ、学校教育目標を共有する。力の差を嘆くよりもそれぞれのすばらしさに目を向ける必要がある。

委員

相手のことを考える。相手をどう捉えるかで、言葉遣いも変わってくる。社会でもかかわりのない人が他人となる。地域として、地域人材活用についても考えていく。わくわく広場の指導員としての地域人材も子どもたちへの声掛けをしながらサポートしている。小さい時から学校と親、それ以外の人とのかかわりを育む環境が大切。社会に出ても違いを認められるようになるのではないか。ダイキン工業でのホテル観賞などは癒された。観て帰るだけで終わらず、もう一歩心を育む取組みができればよいのでは。

優れた教員に学ぶということがあった。どのような先生が来ても、その教員の個性をのばすことのできる雰囲気为学校づくりをしてほしい。赴任してきた教員が、転任するときには力を伸ばしてほしい。

資料を確認したが、学校の教員の大変さを感じた。資料をつくるのにも大きな労力があつたのでは。教員が心豊かに子どもたちへ接してほしい。教員が余裕を持ってほしい。

委員

自分の子どもが通う少し前から味生小学校に注目してきた。大変なことや落ち着いてきた波を見てきた。大変にならないように頑張してほしい。

娘が看護師をして2年目を迎える。看護師は新任教育をしっかりとされている。学校の教員もしっかりと新任教育をしてほしい。教員が熱意を持って取り組めば、誰かに伝わり応援をしてもらえる。頑張してほしい。

委員

校長次第ということ、文科省の職員との話であった。iPad を使えばよいという教職員が多い。あくまでも道具であり、どう活用するかが大切。「iPad をする」のではなく、使うことによってどのような力をつけていくのが大切。目的と目標を校長がしっかりと示せば、周りがついてくる。

校長

「iPad しとき」という指示が私は適切ではないと思っている。

委員

少し前まで、課題が早く終わった児童には読書をよくさせていたように思う。それは難しいのか。

校長

「iPad しとき」という教員ばかりではないが、目的を持って取り組んでほしい。もう iPad はやりませんではなく、バランスを見ながら読書を取り入れていきたい。

委員

大学教授の話で、デジタル教材は答えがすぐわかるが、覚えていない、と話していた。心の豊かさにつなげるには読書が大切。

校長

自由にさせると iPad も読書も児童の好きなよう、個々がやりたいことに動く。どのようにこちらが管理するかが大切。

委員

よいものをつくっていくには、時間がかかる。根気強く取り組むことが大切。読書の大切さがわかるのは、大人になってからかもしれない。信念を持って取り組んでほしい。学校と地域が手を組んでより良いものをつくっていけたら。元に戻すのではなく、新たに作っていくということに感銘を受けた。

委員

地域があつての企業だと思っている。地域の方と交流を深めていきたい。ホテルだけでなく、自然の森の中に淀川水系の生態系が入り込んできている様子なども見られる。中学生も学習に来ている。そのような場が広がっていけばと思っている。我々が持っているものは提供していく。互いに支え合うという関係でありたい。

会社でも手段が目的になることがある。iPad は手段であるはずなのに、目的となつてはならない。単なる道具としてとらえ、目的達成に努めることが大切。何のために、どんな力をつけるかをしっかりと意識することが大切。

教職員の手ごたえと同じで、味生の子どもたちはここ最近どんどん良くなってきている。教員の方針に間違いはないのではないかと感じる。

校長

何を目的にするかは教頭時代にも強くこだわってきた。これからもしっかりと形にしていきたい。